

地理A、地理B

第1 高等学校教科担当教員の意見・評価

地理 A

1 前 文

「地理A」は国際化の進展等社会の変化に伴って現代世界が抱えている課題を地理的に考察することに重点が置かれている。そのために、作業的、体験的な学習を重視し地理的技能を高めることや、今日的課題を日常生活と関連付けて取り扱い、生徒の興味・関心に配慮した内容や方法を工夫したところに特徴がある。

平成25年度の大学入試センター試験（以下「センター試験」という。）は、志願者数、受験者数とも昨年度より増加し、地理歴史科の受験者数も増加し382,223人（追・再試験受験者を含む。）となった。教科全体としては8,872人増加している。昨年度より地理歴史科と公民科の選択方法が変更となり、同一名称を含む科目的組み合わせを除き、両教科より最高2科目を選択できることになった。地理歴史科から2科目の選択者を含む延受験者数は昨年度より増加し、399,443人となっているが、2科目受験者数は156,817人と昨年度より22,400人減少している。

一方、B科目の延受験者数は11,654人の増加に比し、A科目の延受験者数は逆に1,311人減少している。中でも「地理A」の受験者数は2,254人で、昨年度に比べ446人の減少となり、増加率で見ると「地理B」の8.0%、「日本史B」1.4%、「世界史B」-1.2%、「世界史A」-12.3%、「地理A」-16.5%、「日本史A」-19.8%となっており、「日本史A」に次いで減少率が高かった。

A科目の受験者は6,399人で、「地理A」の割合は35.2%を占めており、「日本史A」の41.4%に次ぐ選択率であった。なお、「地理A」の2科目受験者が組み合せた科目として、「現代社会」が56.0%と最も割合が高く、次いで「政治・経済」が14.9%と割合が高かった。

本試験の平均点については、「地理A」50.09点、「地理B」61.88点と、昨年度と比較して「地理A」は2.67点上がり、「地理B」は0.28点下がったが、A科目の中では「地理A」が最も高く、B科目の中では「地理B」が最も低い平均点となっている。また、「地理A」と「地理B」の平均点の差は、昨年度の14.74点から11.79点に縮まり、その幅は「世界史A」と「世界史B」との差（15.76点）や、「日本史A」と「日本史B」との差（20.49点）より小さくなっている。A科目においては、最高の「地理A」と最低の「日本史A」の平均点の差が8.45点であり、昨年度の最高の「日本史A」と最低の「世界史A」の平均点の差5.12点から広がった。地理歴史科、公民科の2科目受験が多い現状の中で、地理歴史科はもとより公民科の科目も含めて、平均点の差により受験者の有利不利が生じないように、さらなる配慮をお願いしたい。

なお、試験問題の具体的な検討に当たっては、例年どおり次の視点から行った。

- (1) 高等学校学習指導要領の目標、内容等を踏まえているか。
- (2) 教科書や学習状況を踏まえた内容になっているか。
- (3) 基礎的な知識や事項の解説並びに地図や統計資料などを分析、考察して処理する能力を測定

し、地理的な見方や考え方を問うことのできる内容になっているか。

- (4) 特定の分野や地域に偏ることなく、総合的な理解力を問う内容になっているか。
- (5) 問題文や選択肢の表現、難易度、形式、配点、正答率等に問題点や偏りがないように配慮されているか。

2 試験問題の内容・範囲等

今年度は平成11年告示高等学校学習指導要領による8回目の試験であるが、全般的に同要領の目標や内容に沿った問題であった。

今年度の問題は、昨年度と同様に複雑な図表の読み取りは少なかったが、一部に「地理A」の学習範囲で取り上げることが一般的でない事項からの出題も見られる。出題分野については、昨年度と同様に、全般的に地理的な見方や考え方および地理的な技能を活用させる問題を中心に出題されている。また、本試験よりは基礎的基本的事項の出題が多く、容易に解答できる設問が見られた。

(1) 出題分野

第1問 地理の基礎的事項

第2問 国境を越えた世界の結びつき

第3問 ロシアおよびその周辺諸国

第4問 世界の諸課題

第5問 金沢市の地域調査

(2) 内容

第1問 地理の基礎的事項に関する問題。図法、大地形、気候、資源、時差などの基礎的事項が幅広く問われている。「地理A」の学習内容にも配慮された基礎的な設問であるが、一部に「地理A」の学習状況では取り扱うことが少ない問題が見られた。

問1 図法の特徴についての問題。正角図法の特徴を理解していれば解答できる基礎的な設問である。

問2 3地点の地形の特徴についての問題。写真のみで判断することが難しく、気候などの他の要素の説明を取り入れるなどの工夫が必要である。

問3 4地点の気候および植生についての問題。地球上の位置から気候の基礎的事項を問う標準的な設問である。

問4 3つの都市の気候や特徴についての問題。「地理A」の学習状況からすると、都市の特徴をここまで詳しく取り上げていない場合が多い。

問5 オーストラリア大陸における自然環境についての問題。オーストラリアの地形や資源に関する基礎的な設問である。

問6 2地点の気候的特徴についての問題。日本の気候と、緯度による昼間時間の違いに関する基礎的事項を問う標準的な設問である。

問7 時差についての問題。時差に関する基礎的知識から解答を導き出すことのできる良問である。

問8 海洋資源の開発と利用についての問題。日本の水産業と海底資源の開発についての基礎的事項を問う標準的な設問である。

第2問 国境を越えた世界の結びつきに関する問題。「地理A」の学習では大きく取り扱われる分野である。全般的に「地理A」の学習範囲を踏まえた貿易や交通に関する設問であったが、一部に「地理A」の学習状況では取り扱うことが少ない時事的な問題が見られた。また、交通の分野からの出題が多く、偏りが見られた。

問1 4つの国・地域の貿易についての問題。図から読み取り、解答を導き出させる地理的思考力を測る設問である。ただし、国・地域との間における工業製品と農水産物の輸出額について「地理A」の学習ではここまで詳しく取り上げない場合が多く、難易度が高い設問であったと思われる。

問2 コーヒーの生産、流通、消費についての問題。プランテーション作物に関する基礎的な知識を問う設問である。

問3 アメリカ合衆国の情報サービス、知的財産、旅行についての問題。それぞれの指標についての基礎的理解から相手国を判断させる良問である。

問4 4か国の貿易についての問題。距離的・文化的な近接性や歴史的つながりを問う標準的な設問である。

問5 4か国の航空交通についての問題。国際線と国内線の図の比較から、航空交通の特徴を考察させる良問である。

問6 船舶輸送についての問題。船舶輸送の時事的な問題について、「地理A」の学習ではここまで詳しく取り上げないことが多く、難易度が高い設問であったと思われる。

問7 陸上輸送についての問題。陸上輸送の時事的な問題について、「地理A」の学習ではここまで詳しく取り上げないことが多く、難易度が高い設問であったと思われる。

第3問 ロシアおよびその周辺諸国の自然環境、民族、文化、都市、日本との結びつきに関する問題。資料等を活用して地理的思考力を問う設問である。ただし、一部に「地理A」の学習範囲で取り上げることが一般的でない事項の出題が見られた。

問1 4地点の自然環境や人間活動についての問題。気候、地形、環境問題など、取り上げられている事項が「地理A」の学習内容に沿っており、標準的な設問である。

問2 4か国の森林資源についての問題。「地理A」の学習状況からすると、森林資源についてここまで詳しく取り上げない場合が多く、難易度が高い設問であったと思われる。

問3 ロシアとその周辺諸国の民族についての問題。3つの地域の自然環境からも解答を導き出すことのできる標準的な設問である。

問4 ヨーロッパロシアの文化とその背景についての問題。標準的な設問であるが、「地理A」の学習状況からすると、一部に取り扱う機会の少ない事項が見られた。

問5 4つの都市の景観とその特徴についての問題。図と文章を組み合わせて思考させる標準的な設問であるが、この都市の特徴について、「地理A」の学習状況ではここまで詳しく取り上げない場合が多い。

問6 日本とロシアの結びつきについての問題。文章のみで解答が可能であり、図3を活用し、地理的思考力を問う要素を取り入れるなどの工夫が欲しい。

問7 ロシアの自動車生産と中古車輸入についての問題。取り上げられている事項が「地理A」の学習内容に沿っており、標準的な設問である。

第4問 世界の諸課題に関する問題。貧困、教育の普及、環境問題、国連の取組みなど幅広いテーマが出題されている。地図や図表を使いながら、「地理A」の学習で培われた地理的な見方や考え方を問おうとしている問題である。ただし、一部に「地理A」の学習範囲で取り上げることが一般的でない事項の出題が見られた。

問1 4つの地域の貧困人口についての問題。図を読み取る技能と、知識を組み合わせて思考させる良問である。

問2 4か国の初等教育の普及についての問題。標準的な設問であるが、表1の指標のみでは判断に迷う国が含まれている。

問3 世界の国・地域における5歳未満児死亡率についての問題。国や地域の政治・経済の状況についての知識と図を読み取る技能を問う標準的な設問である。

問4 4つの地域における環境の変化についての問題。「地理A」の授業で取り扱う基礎的事項について問う設問である。

問5 国連の取組みについての問題。国連の各機関の取組みの内容について、「地理A」の学習状況ではここまで詳しく取り上げない場合が多い。

第5問 金沢市に関する地域調査についての問題。問題の構成は全問「地理B」との共通問題となっているが、「地理A」の学習内容にも十分配慮したものであった。内容としては、地形図、統計資料、写真資料などを取り入れ、地理的な技能の習熟度を測るとともに、自然環境や地域の変容を考察させる良問である。

問1 3つの都市における気温と降水量についての問題。日本の気候についての基礎的理解を問う標準的な設問である。

問2 金沢平野の自然環境についての問題。図を読み取り、地形の知識を問う基礎的な設問である。

問3 金沢市内に見られる家屋についての問題。写真が見やすく工夫されているが、一般的な知識で解答が可能であり、受験者の居住地域により解答が導きやすいことが予想される設問である。

問4 金沢市の歴史的文化遺産についての問題。地形図と断面図の読み取りと説明文を組み合わせて考察させる良問である。

問5 新旧の地図による市街地周辺の変化の読み取りについての問題。地域の変化を新旧2つの地図から読み取らせる標準的な設問である。

問6 金沢市の観光客数についての問題。グラフから読み取れることからもとにして、地域調査の方法について問う基礎的な設問である。

3 分 量・程 度

(1) 問題の程度

一般的には「地理A」の学習の成果をもとに解答できる問題であった。単純に地理的知識の有無を問う設問も見られたが、昨年度と同様に、図表や資料を活用した地理的思考力を測る設問が多くなった。一部取り組みにくいと考えられる設問があった。その要因として、次のようなことが考えられる。

- ① 図表を読み取るのに細かい知識を必要とする問題があった。
- ② 「地理A」の学習の中では取り上げられることが少ない事項や国・地域がみられた。

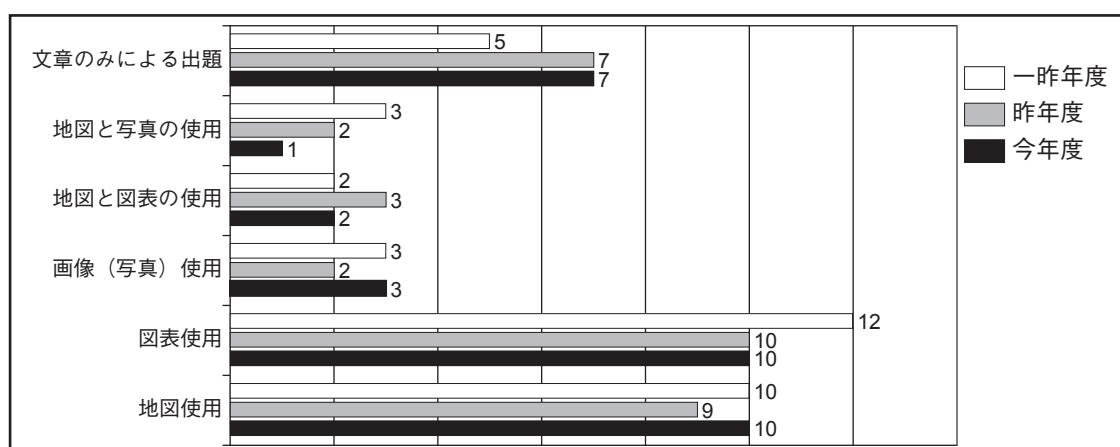
(2) 設問数

設問数は、大問数は5問、小問数は33問で昨年と同様であった。60分の試験時間の中でじっくりと解答する時間を持てることが望ましいが、高配点（4点）の小問が生じたことについては後述する。

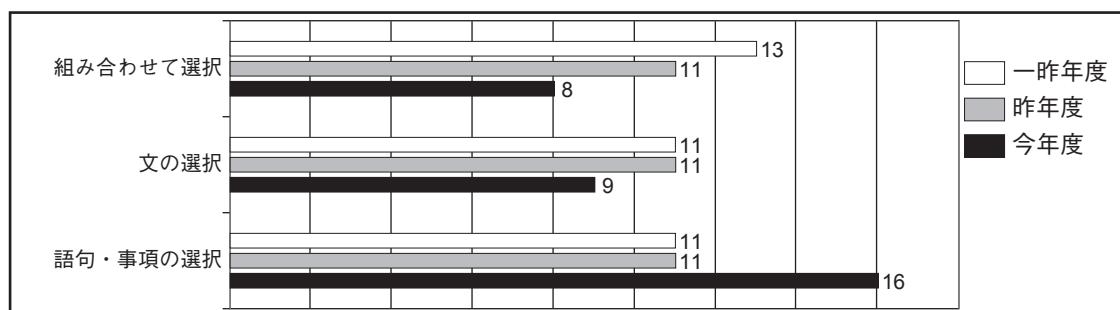
4 表現・形式

(1) 形式・配点

小問の出題形式と解答方法は、下のグラフのとおりである。今年度については「語句・事項の選択による解答方法」の増加が目立つ。また、「組み合わせて選択による解答方法」が減少した。



グラフ1 出題形式



グラフ2 解答方法

なお、大問の形式については、小問集合（第1問）、地図と図表を中心としたもの（第2問・第4問）、地図を用いてテーマを示したもの（第3問）、写真と地形図を用いてテーマを示したもの（第5問）とバランスよく構成されている。

配点については第2問の問1を4点とし、その他は全て3点であった。基礎的な学力を測るセンター試験の趣旨から、難易度の高い問題を高配点とするよりは、低配点の基礎的な知識問題を2題設定することが望ましいと考える。

(2) 表現

地図・写真に不適切なものは見られなかつたが、写真の解像度に不十分なものがあつた。写真による出題の際は、第5問問3写真1のような鮮明度が望ましい。第1問問2写真1については、イとウの判別が難しく、イについて他の角度から撮影した写真を用いる工夫も必要だと思われる。第5問問4図3は地形図と断面図がわかりやすく示され、よく工夫されている。今後もこのような出題がされることが望ましいと考える。

5 要 約

「地理A」は受験者が少ない上に、幅広い層の生徒が受験するため、難易度の調整についてはかなり難しいと考えられるが、今後とも基礎的な内容、範囲、形式で、適当な難易度の作問をお願いしたい。その際には、「地理B」と共通して出題された問題に関する、「地理A」受験者と「地理B」受験者との解答状況の分析が手がかりの一つになると考えられる。

今年度の追・再試験でも、本試験と同様、「地理A」の高等学校学習指導要領で、事項や事例を選択して扱うとされている内容からの出題が見られた。このような出題があると、それに対応するため、出来るだけ多くの事項や事例を扱うような学習を余儀なくされ、項目間選択や事例学習の趣旨が生かされなくなる。出題については、特定の学習事項や地域の知識・理解だけを問うのではなく、地理的な見方や考え方にもとづく思考と判断が必要なく単純に解答できる設問が少なかった。また、本試験と比較して出題の意図が反映されやすい資料が用いられ、受験者の思考を妨げる資料が少なかった。ただし、図表中の指標の読み取りが「地理A」の学習内容では難しすぎる設問が一部見られた。

以上を踏まえて、今後の出題に際して、一考をお願いしたい点を次にまとめる。

- ① 「地理A」では作業的、体験的な学習を重視し地理的技能を高めることが学習のねらいの一つである。「地理A」の履修者にとって、学習の範囲を超えるような細かな知識を問う設問は避け、「地理A」のねらいや学習状況を踏まえた問題作成をお願いしたい。
- ② 単調な出題形式や図表の読み取りにならないような出題の工夫や、写真などに着眼点を導きやすいよう説明文をつけるというような工夫が望まれる。また、図表との関連性が薄く文章だけで解答できる設問にならないような工夫などもお願いしたい。特に、事項や事例を選択して扱う内容に関しては、学習していない生徒でも他の地域や地理的事象から推察して解答できるよう、問い合わせの工夫をお願いしたい。
- ③ 「地理A」・「地理B」の共通問題は、今年度は大問一つ（第5問）で出題された。出題の内容は、概ね「地理A」の受験者にも配慮されていた。独自の問題作成が望ましいが、共通問題とした場合でも、今後とも、大問および小問について「地理A」にも配慮した内容や問い合わせにしてほしい。

センター試験が高校現場に与える影響は大きく、センター試験が知識偏重から思考力、判断力を求める出題を増やしたことで授業が変わってきている。また、昨年度から受験の形態が変更されたこともあり、「国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う」ことにつながる、「地理A」独自の学習内容を強く意識した、質の高い出題をお願いしたい。最後に、今年度作間に当たられた諸先生方の御努力に敬意を表したい。

地理 B

1 前 文

平成25年度の大学入試センター試験（以下「センター試験」という。）の受験者は、昨年度と比べ16,960人増加した。『地理歴史』から2科目受験が可能であるので、『地理歴史』受験者数は昨年度に比べ8,872人の増加となった。これに伴い本年度の「地理B」受験者数は143,277人で、昨年度より10,620人の増加となった。

試験問題の評価については、昨年度に難易度と得点のちらばりを加え、次の7視点から行った。

- (1) 高等学校学習指導要領の目標・内容に合致し、教科書及び学習活動の実態を踏まえた内容になっているか。
- (2) 地図や図表・統計資料等を分析・考察し、処理する能力を測定する内容になっているか。
- (3) 特定の分野に偏らず、総合的に「地理的な見方や考え方」を問う内容になっているか。
- (4) 問題の分量や程度などに配慮しているか。
- (5) 問題文の表現や形式、配点などに配慮しているか。
- (6) 問題の難易度や得点のちらばりなどが適正となるように配慮されているか。
- (7) 過去の問題に対する意見・評価などを考慮して出題されているか。

2 試験問題の内容・範囲等

本年度の追・再試験は、本試験と同様に高等学校学習指導要領の目的や内容に沿った出題であった。出題分野は昨年度と同様に自然環境、資源と産業、生活文化と都市、地誌、世界の諸課題及び地域調査からバランス良く出題された。

また、いずれも基本的な知識や理解を問う内容を中心に、図表や地図、画像（写真）、統計資料などを活用した「地理的な見方や考え方」や「地理的技能」を問う設問も多く見られた。このように、知識のみではなく地理情報の分析や思考、判断の能力を求める出題が定着している。なお、本年度も衣食住や宗教、人種・民族、都市問題や世界遺産など日常生活に密着し、歴史的背景を考慮して思考させる設問が出題され、平成21年告示の高等学校学習指導要領の教育内容改善事項等に配慮した形となった。

出題分野は次のとおりである。大問数は6題、小問数35題で昨年度と増減はない。なお、「地理A」との共通問題は「地域調査」のみの小問6題となっている。

(1) 出題分野

- 第1問 世界の自然環境
- 第2問 資源と産業
- 第3問 生活文化と都市
- 第4問 中国の地誌
- 第5問 現代世界の諸課題
- 第6問 石川県金沢市の地域調査

なお、過去8ヶ年度の出題分野（学習指導要領の内容による）については次のとおりである。

出題分野	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
自然環境	地理の基礎的事項 世界の風と人々の生活	イタリア、日本、 ニュージーランドの 自然環境	南アメリカと その周辺の自然環境	世界の自然環境
資源、産業	資源と産業	世界の産業や資源	世界の農牧業	世界の鉱工業
都市・村落、生活文化		世界の都市の 空間的な構造と生活	世界の生活文化	世界と日本の都市
地域調査	宮城県仙台市（東北）	富山県砺波市（北陸）	石川県輪島市（北陸）	信濃川流域と新潟市 (北陸)
世界地誌	北半球の高緯度地域	ヨーロッパ東部	西アジア	ロシアと その周辺地域
現代世界の諸課題	現代世界の特徴と 課題	現代世界の諸課題	地球環境問題	現代世界の諸課題
出題分野	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
自然環境	世界の自然環境	世界の自然環境	世界の自然環境	世界の自然環境
資源、産業	世界の第1次産業	世界の農水産物の 生産や供給	世界の資源や産業	資源と産業
都市・村落、生活文化	世界と日本の都市	世界の村落・都市と 生活文化	都市と消費・観光・ 余暇活動	生活文化と都市
地域調査	奈良県橿原市（近畿）	鹿児島県の大島 (九州)	滋賀県長浜市（近畿）	石川県金沢市（北陸）
世界地誌	中央・南アメリカ	オセアニア	東南アジア	中国
現代世界の諸課題	現代世界の諸問題	現代世界の諸課題	現代世界の諸課題	世界遺産にかかる 現代世界の諸課題

(2) 内容

第1問 世界の自然環境に関する大問である。冬季の降水量と気温の季節配分、海水温の分布とその現象、南北半球ごとの貿易風、熱帯低気圧、海洋の地形、土壤と植生といった気候を中心とした自然環境全般からの出題であった。全体的には自然環境についての基本的な知識があれば容易に解答できる問題が多く、取り組みやすかったであろう。

問1 地図中の4地点における年降水量に対する冬季3か月の合計降水量の割合と、冬季3か月の平均気温との関係を示した図に関する選択問題である。グラフと地図を用いて思考・判断を問う良問である。しかし、気候の特徴についてやや細かな判断力を要求することから、受験者は戸惑ったことであろう。

問2 地図に示された海水温の分布と、それに関連した現象について述べた文に関する正誤問題である。海流の分布とその影響についての基本的な知識があれば、容易に解答できる。

問3 貿易風について南北半球の風向きに関する組合せ問題である。恒常風についての基本的な知識があれば、容易に解答できる。

問4 热帯低気圧について述べた文に関する正誤問題である。热帯低気圧の性質と地域による名称についての基本的な知識があれば、容易に解答できる。

問5 地図中の3地域における地形について述べた文に関する組合せ問題である。世界各地の特徴的な海洋の地形についての基本的な知識があれば、容易に解答できる。

問6 アメリカ合衆国のプレーリー地域における土壤と植生について述べた文の空欄に当てはまる語句に関する組合せ問題である。土壤の分布とその特徴についての基本的な知識があれ

ば、容易に解答できる。

第2問 世界の資源と産業に関する大問である。受験者にとってなじみの薄い産業を取り上げたり、国際経済を反映した時事問題との関連知識が求められたりしているが、地図や表、グラフを読み取る技能を用いることで解答できたであろう。

問1 アブラヤシ、茶、パイナップルの生産量について、世界に占めるアジアの割合の推移を示した図から読み取れることがらとその背景について述べた文に関する正誤問題である。プランテーション農業についての基本的な知識があれば、容易に解答できる。

問2 世界における穀物の生産や流通について述べた文に関する正誤問題である。世界各地の自給的農業や企業的農業、商業的農業についての基本的な特色を理解していれば、容易に解答できる。

問3 日本における小麦粉、砂糖、配合飼料、ビールについて主な工場の分布を示した図に関する選択問題である。それぞれの産業立地の地域性についての理解があれば、解答できる。地図に示された工業立地から産業の特徴に関する思考・判断力を問う良問であったが、主な工場に関する規模についての注釈が必要であった。

問4 アメリカ合衆国、ドイツ、ブラジル、フランスの液体バイオ燃料の生産量と1人当たり1次エネルギー供給量を示した表に関する選択問題である。各国の農業生産と経済状況についての基本的な知識・理解があれば、容易に解答できる。

問5 多国籍企業の進出がみられる輸出加工区について述べた文に関する正誤問題である。輸出加工区についての基本的な知識があれば、容易に解答できる。

問6 シンガポール、タイ、ベトナムにおける海外直接投資の純流入額の推移を示した図に関する組合せ問題である。直接投資がNIEs、ASEAN 4、ベトナムの順に進んだことと投資額について判断できれば、解答できる。

第3問 生活文化と都市に関する大問である。生活文化では、食文化と宗教の習慣、住居の建築材料を、都市では地図の読み取りと大都市圏の現象、最近の都市における消費問題を扱うなど、バランスよく出題された。基本的な知識があれば容易に解答できる問題が多く、取り組みやすかったであろう。

問1 地図中の3地域において伝統的に使用されている発酵食品について述べた文に関する組合せ問題である。世界の様々な食文化についての基本的な知識があれば、容易に解答できる。

問2 イスラエル、インド、サウジアラビア、タイにおける主要な宗教の習慣とそれと結びついた社会構造について述べた文に関する選択問題である。世界の主な宗教についての基本的な知識があれば、容易に解答できる。

問3 地図中の3地点における伝統的な住居の建築材料について示した写真と説明に関する組合せ問題である。地図から気候を判断し各気候の特色を写真から読み取る良問で、各気候における生活の特徴についての基本的な知識・理解があれば、容易に解答できる。

問4 地図中に示された都市における1804年と2007年の地図と都市の景観の変化から読み取れることがらを述べた文に関する正誤問題である。地図を正確に読み取る技能があれば、容易に解答できる。

問5 先進国における大都市圏の成長・衰退・再生について述べた文に関する正誤問題である。近年の都市問題についての基本的な知識があれば、容易に解答できる。

問6 食料品店への近接性が低い世帯人口とその中に含まれる65歳以上人口を示す表から、読み取れることがらとその背景について述べた文に関する正誤問題である。現代の社会問題である買い物難民を取り上げており、大都市の生活についての基本的な知識・理解があれば、解答できる。

第4問 中国に関する大問である。自然環境、省ごとの畜産・域内総生産・貿易統計、人々の生活、世界各地の中国系住民など幅広い分野がバランスよく出題された。一部に細かな知識が求められたが、全体的には基本的な知識や理解を問う容易な設問である。

問1 中国における自然環境の特徴について説明した文に関する正誤問題である。自然環境と農業についての基本的な知識があれば、容易に解答できる。

問2 中国における牛肉、羊肉、豚肉の生産量について、中国全体に対する省ごとの割合を示した図に関する組合せ問題である。牛肉については自然環境をもとにして判断することは難しかったが、自然環境と宗教の習慣についての基本的な知識をもとに判断すれば、解答できる。

問3 中国における1人当たり域内総生産を省ごとに示した図から読み取れることがらとその背景について述べた文に関する正誤問題である。中国の地下資源や内陸と沿岸部の経済格差、人口抑制政策についての基本的な知識があれば、容易に解答できる。

問4 中国における衣料品、魚介類、自動車の輸出額と輸入額の推移を示した図に関する組合せ問題である。中国の貿易や産業構造についての基本的な知識・理解があれば、容易に解答できる。

問5 近年の中国における人々の生活の変化について説明した文に関する正誤問題である。中国におけるインフラ整備や環境問題についての基本的な知識があれば、容易に解答できる。

問6 世界各地の中国系住民について述べた文に関する正誤問題である。ヨーロッパの中国系住民についてはあまり教科書で取り扱われないが、世界各地で活躍する中国系移民についての基本的な知識があれば、容易に解答できる。

第5問 世界遺産にかかる現代世界の諸課題に関する大問である。紛争や災害、観光化による環境問題など、世界を取り巻く諸課題を幅広く取り扱った設問である。一部に細かな知識を必要とする設問も見られるが、全体的には基本的な知識を問う容易な設問である。

問1 地図に示されたコンゴ民主共和国の世界遺産オカピ野生保護区を含む地域を説明した文の空欄に当てはまる語句に関する組合せ問題である。気候や地域紛争についての基本的な知識があれば、容易に解答できる。

問2 地図中の2地点の危機遺産について述べた文の正誤に関する組合せ問題である。気候と地形についての基本的な知識があれば、容易に解答できる。

問3 地図中のボスニア・ヘルツェゴビナの都市モスタルに存在する世界遺産の橋をめぐる国・地域の状況について述べた文に関する正誤問題である。世界の民族紛争についての基本的な知識があれば、容易に解答できる。

問4 イタリア、オーストラリア、コスタリカにおける観光化と環境保全の両立の課題について

て述べた文に関する組合せ問題である。主な世界遺産についての基本的な知識があれば、容易に解答できる。

問5 ヨーロッパにおける酸性雨対策について述べた文に関する正誤問題である。酸性雨対策についての基本的な知識があれば、容易に解答できる。

第6問 石川県金沢市の自然環境と人々の生活について行った地域調査に関する大問である。グラフ、衛星画像、景観写真、地形図などの地域調査で使う多種多様な資料を用い、それらを読み取る能力や、分析し考察する能力が試された。地形図の読図では解答に時間を要したと思われるが、容易なレベルである。

問1 金沢市、静岡市、長野市の月平均気温と月降水量を示した図に関する組合せ問題である。日本海側と太平洋側、内陸部の気候の特徴についての基本的な知識・理解があれば、容易に解答できる。

問2 金沢平野とその周辺を示した図から読み取れる自然環境の特徴について述べた文の空欄に当てはまる語句に関する組合せ問題である。衛星画像から地形や沿岸流を読み取らせる良問であり、日本の自然環境についての基本的な知識があれば、容易に解答できる。

問3 金沢市内でみられる家屋を撮影した写真と説明に関する選択問題である。写真から冬の積雪に対応した工夫を読み取る技能があれば、容易に解答できる。なお、「うだつ」は装飾的な意味合いの濃いものであり、気候への直接的な対応とは考えられない。

問4 金沢市の歴史的文化遺産である辰巳用水の図について説明した文に関する正誤問題である。地形図と断面図を正しく読み取る技能があれば、容易に解答できる。

問5 金沢市中心部における17世紀前半の様子を示した図と、2006年の図の比較から読み取れることがらを述べた文に関する正誤問題である。古地図に示された凡例の位置を現在の地形図に当てはめさせる良問であり、地形図を正確に読み取る技能があれば、容易に解答できる。

問6 兼六園を訪れる観光客数と外国人観光客数の推移を示した図から、読み取れることがらとその背景を調査する方法について述べた文に関する正誤問題である。地域調査の目的とその方法についての基本的な知識・理解があれば、容易に解答できる。

3 要 約

(1) 問題の程度

本年度も、基礎的・基本的な教科書レベルの問題から、地理的知識や考察力・思考力を必要とする問題まで、幅広く出題されてれている。また、地形図、表、グラフなどの資料も昨年度と同様に数多く用いられており、「地理的な見方や考え方」および「地理的技能」を活用する設問が多くみられる。

また、全体として標準レベルの問題が多く、地図・図表を使っての選択問題が減少し、本試験と比較すると易しくなっていた。

今後の高等学校の授業においては基本的な地理的知識の習得を行いながら、「地理的な見方や考え方」および「地理的技能」を身につけることが重要である。さらに、リード文など与えられた条件を把握する力や「現代社会」をはじめ他の教科・科目と関連づけて、多様な視点から地域

や世界を考察させる取り組みが求められる。

(2) 設問数・配点・形式等

設問数は大問数6問であった。本試験と同じく第1問から第4問と第6問は六つ、第5問は五つの小問で構成されており、全解答数は昨年度と同じ35題であった。

配点および設問数も本試験と同じであり、第1問、第6問で3点が四つと2点が二つで16点満点、第2問、第4問はすべて3点で18点満点、第5問もすべて3点で15点満点、第3問は3点が五つと2点が一つで17点満点であった。

設問形式と出題形式は右の表のとおりである。文章の正誤問題が17題、選択問題が5題、組合せ問題が13題であり、昨年度より選択問題の割合が低くなっている。

出題形式としては、地図、図表、画像（写真）を用いて判断する問題が35題中24題と例年より減少しているが、全般的に地理的知識を用いて多角的な思考力を問う出題意図を読み取ることができる。資源と産業、地誌、現代世界の諸課題に関する分野では、現代世界の新しい動向をふまえて解答するものもあり、工夫されたものであった。

(3) おわりに

本年度の追・再試験は、昨年度と同様に高等学校での学習内容が反映され、しかも幅広い分野から出題されている。昨年度までの意見や評価を考慮した出題となっていることに感謝したい。基礎的・基本的な内容を大切にしながらも、地理的な思考力を問う総合的な出題は、高等学校の授業に対してもよい影響を与えている。

しかし、一般に追・再試験は本試験よりも難易度が高いと考えられるが、本年度は、本試験と比べると選択問題や図表が少なく、読み取りや考察にあまり時間がかからず、全体的に容易であったと考えられる。本試験と追・再試験の難易差が、本試験受験者を含めた全受験者にとって不利なものとならないよう、配慮をお願いしたい。

「地理B」の学習は「地理的な見方や考え方」及び「地理的技能」の習得を目指しており、センター試験が高等学校における学習成果を測る物差しである以上、その力を問う出題でなければならない。このような考え方方に立って、様々に創意工夫を凝らして考察力・分析力を問う作問により、今後とも受験者の地道な努力が報われるような出題をお願いしたい。

設問形式による分類	平成25年	平成24年
文章の正誤	17	13
選択	5	10
組合せ	13	12

出題形式による分類	平成25年	平成24年
文章のみ	11	8
地理的技能	地図使用	6
	図表使用	7
	画像使用	1
	地図と図表	8
	地図と画像	2
	図表と画像	0
	地図と図表と画像	0

※ 衛星画像を地図（地勢図）と判断した。

また、画像には写真を含む。